

光といのち

第121号
一報恩講一
2019年11月1日発行

発行所
真宗大谷派勝善寺
〒299-2214
千葉県南房総市二部1344
電話 0470-57-2657
FAX 0470-57-2290

Eメール info@syozenji.or.jp
住職 井上孝昌

あなたが人生に
絶望しても
人生はあなたに
絶望していない

ヴィクトール・フランクル



報恩講

速夜法要

十一月十五日(金)
十五時〜十六時

晨朝法要

十一月十六日(土)
六時半〜七時

日中法要

十一月十六日(土)

受付 九時三十分〜

十時〜十二時三十分

感話 黒川 敦子 氏

法要 正信偈念仏和讃

法話 了善寺住職百々海真師

講題

「驚き・発見・出立」

※法要法話後にお齋(食事)

題字下の言葉は、台風15号で罹災し世情が混乱していた時期に、鋸南町塚原公民館前の掲示板(右の写真)にありました。

真宗大谷派東京教区が設置し、この地区の世話人田村徹夫氏が管理しています。この言葉は、氏が選り掲示しました。

フランクルは、ユダヤ人の精神科医です。第二次世界大戦中ナチスに捕らえられ強制収容所で二年間を過ごしました。その体験を著した『夜と霧』を『存じ』の方もありません。

「人生はあなたに絶望しない」。

これは強制収容所で極限状態にあったフランクル自身が、立ち上がった言葉です。親鸞聖人の人生には、絶望するほどの苦難が幾度もありました。その度に聖人は浄土真宗によつて立ち上がられました。

私たちは、その教えに集う真宗門徒です。その私たちが、信心を確かめ喜びを共にする大切な法要。それが報恩講です。

以下に、宗祖親鸞聖人の事績を、『御絵伝』と『御伝鈔』で紹介します。

親鸞聖人御絵伝 第三の巻

※下から上へ、右から左に場面が進みます。



第十五図

山伏弁円は稲田草庵へ乗り込んだが、親鸞聖人の温顔に接すると、心を改め弟子となる。

山伏弁円は、親鸞聖人の殺害を企て板敷山で仲間二人と待ち伏せるが失敗する。



第十四図

聞法に稲田草庵に集まる人々

越後国を伝道に巡る

親鸞聖人年表

※太字は、左記の『御伝鈔』に関係するところです。

- 1173年 京都日野に誕生する。1歳
- 1181年 京都青蓮院で出家する。9歳
この頃に鎌倉幕府成立
- 1201年 延暦寺の勤めを辞め、京都六角堂に参籠し聖徳太子の夢告により、法然上人に師事する。(『御伝鈔』では、法然上人に師事した後に、六角堂に参籠している。) 29歳
- 1204年 法然上人の門弟190人の一人として「僧綽空」と署名する。32歳
- 1205年 法然上人が著した『選択本願念仏集』(浄土宗の教義書)の書写を許され、上人の真影を図画する。また、法然上人から「親鸞」(「善信」という名をいただく。33歳
- 1207年 法然聖人が開いた浄土宗(専修念仏)が禁止され、法然上人と門弟が処罰(4人が死罪、8人が流罪)される。親鸞聖人は、越後国へ配流となる。35歳
(法然上人は、土佐国に配流)
- 1211年 流罪を許される。39歳
- 1214年 越後国から常陸国に赴く。42歳
以後20年間、稲田草庵(茨城県笠間市西念寺)などを拠点に、聞法求道の人生を歩み、関東の人々に浄土真宗が伝わる。門徒の数は数万人を超える。
- 一方、『教行信証』(浄土真宗の教義書)の著作を始める。
- 鹿野山神野寺や勝善寺(当寺)に訪れたという伝承もある。
- 1221年承久の乱
- 1234年 この頃京都へ移る。62歳頃
『教行信証』の推敲を続ける。また、関東などの門弟のために、和讃や「かな聖教」と呼ばれる書物や手紙を書き送り、浄土真宗の信心を歩み続けた。
- 1262年 11月28日に京都で入滅する。90歳
1274年・1281年蒙古襲来
1333年鎌倉幕府滅亡

『御伝鈔』下巻第二段・三段の意識

第二段

親鸞さまは、越後国をあとにして、常陸国へ移り、笠間郡稲田郷というところに住まわれることになりました。人里離れた山の中に移り住んだのですが、坊さんであろうと、俗人であろうと、そんなことに関係なくそこを訪ねる人は多く、粗末なわらぶきの家に、身分の高い人も、名もなき人々も続々と集まってくるのでした。

南無阿弥陀仏の教えをみんなのものに、という仏の願いは、ここによく花開き、

だれでも歩める浄土への道は、やっとここに民衆の生活の中に根をおろすことになりました。

このとき親鸞さまは、※ぐぜかんのん「救世観音の夢のお告げが、いま、やっと私の生活に現れてきましたよ」と、おおせられました。

※「救世観音の夢のお告げ」(上巻第三段)

「建仁三年(一一〇三)四月五日の夜、親鸞さまは、不思議な夢を見ました。その夢というのは、「その昔、聖徳太子がいつも礼拝されていた六角堂の救世観音が、おごそかな顔だちの高僧の姿となって現れ、真っ白な袈裟を身にまと

い、大きな白い蓮の花の上におすわりになって、善信(親鸞さま)に向かつて、「あなたは、今まで坊さんたるものは妻をめぐってはならない、と禁止されていた伝統の戒律を、今こそ破らねばなりません。私は玉のような美しい女性となり、あなたの妻になりましょう。そして、一生の間、よくあなたの活動をたすけ、いのち終わるとき、私の生涯はこれで十分であったと、心から喜べるようになる極楽浄土と一緒に参りましょう」と告げられました。

そして救世観音はさらに、「これは私の誓願なのです。善信よ、あなたはこの誓願のあらわす深い意味をあきらかにし、色あせた夢も希

望ももてない人生を歎く者に説き聞かせてあげるがよい」とお告げになりました。

そのとき、親鸞さまは、夢の中にありながら、お堂の正面に向かつて東の方を見ると、けわしくそびえたつ山々がならび、その高い山の上に、数限りない人々が集まっているのが見えました。そこでお告げのように、その誓願の意味をその人々に説き聞かせ終わつたときに、夢がさめたのです。」

第三段

親鸞さまは、常陸国にあつて、「ただひとえに阿弥陀如来の本願に自分の人生のすべてをまかせ南無阿弥陀仏の教えに導かれて、明るい、生き生きとした私に生まれ変わる」という体験を人々に語られました。その教えを疑いそしるなどという人は少なく、ほとんどの人は、その教えを心から喜び苦難の生活に立ち向かつていきました。

だが、この世の中には、そんな簡単に救いの門をくぐれる人ばかりとはかぎりません。常陸国に弁円べんねんという山伏の修行者がおりました。偉い修行者ということでもわりの人々の尊敬を一身に集めていたのですが、親鸞さまのところへ、念仏の教えを聞こう

と集まる人が多くなるにつれて、恨みを抱くようになり、最後には、親鸞さまを殺害しようと思いつめ、親鸞さまの動向をうかがうようになったのです。

そのころ親鸞さまは、念仏の教えを説き弘めようと、板敷山という深山の小路をしばしば往復しておられたので、弁円はそこに待ち伏せして親鸞さまをつかまえようと思いましたが、いつもさまざまな邪魔がはいって、その目的を達することができませんでした。そのうちに人のうわさをいろいろ聞いてみると、どうも親鸞という人は、自分が考えていたような人ではないらしいのです。そこでためしに一度会ってみようと思ひ、思いきって親鸞さまのすまいを訪れたところ、親鸞さまは喜んでお会いになりました。

弁円が親鸞さまの尊いお顔をはじめて仰いだとき、これはまことに不思議なことであるが、いままで親鸞さまを亡きものにしてようと恨み憎んでいた心が一度に消え失せて、それどころか、「なぜこんなすばらしい人を殺害しようなどという恐ろしいことを考えたのか」と、後悔の涙がこぼれてくるのでした。

ややしばらくして、山伏弁円は、今までつもりつもっていた恨み、憎しみの心の内をありのままに親鸞さまにうちあけました。が、親鸞さまは、あまり驚くようすもありませんでした。

弁円は、そこで、すぐさま、持っていた弓矢を折り、刀やつえを投げ捨て、頭巾をはずし、着衣をあらためて、南無阿弥陀仏の教えに育てられる身となり、ついに今まで見失っていた生き生きとした人生に目覚めることができたのです。これはほんとうに不思議なことでした。後に明法房みょうぼうと呼ばれるようになった、念仏者のお手本のようなお方は、この人のことなのです。その名は、親鸞さまがおつけになったものです。

『親鸞聖人伝絵——御伝鈔』東本願寺出版より

『御伝鈔』は、親鸞聖人の生涯を讀める絵詞『親鸞伝絵』の詞書の部分を巻物にした上巻八段下巻七段からなる物語です。作者は聖人の曾孫、覚如上人です。

『御絵伝』は、四幅の巻物に二十の図が描かれています。

報恩講には、本堂内陣の向かつて左側の余間に掛けます。

9月9日未明、台風15号に襲われる。

未曾有の災禍に遭われた方々に、衷心よりお見舞申しあげます。

当寺の被災に、ご門徒や御同行の方々、宗門（東京教区）や諸寺院様からお見舞を賜りました。地域のボランティアの方々や聞法会で知り合った御同行が、嵐に引きちぎられた枝葉で覆われた境内を片づけてくださるということもありました。厚くお礼申しあげます。



地域の中高生と保護者のボランティア

境内を覆った枝葉を片づけ、一人ではとても従わない倒れた広葉杉（コウヨウザン）を、みんなで運んでくれました。

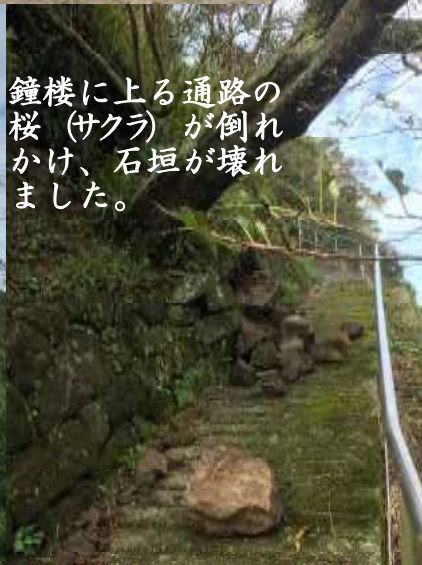


嵐に引きちぎられた枝葉に覆われた境内

今年の東京教区推進員の集いで知り合った曾田英樹氏は、柏市から支援物資掃除を手をまわしてしてくれました。川名喜昭氏も参加していました。隣は、ふじ子夫人



鐘楼の屋根瓦が強風に剥（む）かれ、榎（マキ）が倒れました。



鐘楼に上る通路の桜（サクラ）が倒れかけ、石垣が壊れました。



勝善寺聞法会

講師 副住職 井上泰之
12月8日（日）
14時～16時
テキスト『歎異抄白日抄』
参加費 500円

※鐘楼屋根の仮修復が、十月二十九日におかげさまで出来ました。

- 一 報恩講当番地区の変更
二部下・検儀谷地区と平群地区を二〇二〇年度の当番とする。
- 一 川名喜昭氏に引き続き責任役員をお願いする。
- 一新世話人
市井原 川名 昇 氏
大崩 石井 俊幸 氏
大橋 中山 明夫 氏
(重田和夫氏は継続)

世話人総会
十月二十日（日）30人の世話人が、復興作業が続いている中出席され、報恩講などについて協議しました。また、役員会に諮った左記を報告し、了承していただきました。